

論文審査の結果の要旨

氏名：坂 口 雅 州

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：Patient outcomes of monotherapy with hypofractionated three-dimensional conformal radiation therapy for stage T2 or T3 non-small cell lung cancer: a retrospective study
(限局型非小細胞肺癌(T2,T3)の原体照射単独治療後の後ろ向き観察研究)

審査委員：(主 査) 教授 櫻 井 裕 幸
(副 査) 教授 松 本 直 也 教授 阿 部 雅 紀
教授 後藤田 卓 志

本研究は限局型非小細胞肺癌（T2/T3）に対する3次元原体照射治療（3D-CRT）後の臨床経過を評価した後方視的観察研究である。3D-CRTは、限局型非小細胞肺癌の放射線治療法の一つであり、根治を目的として行われる高精度の体幹部定位照射（SBRT）が適応困難な患者さんへ適応される、より簡易的放射線治療法とされる。本研究では2005年1月から2014年6月までに非小細胞肺癌と診断され、3D-CRTを行った29名を対象として、その治療成績および局所制御率、予後に影響する因子について検討がなされている。中間観察期間が17か月、1年生存率65.8%、3年生存率33.8%であった。また、局所制御率に影響及ぼす因子は生物学的等価線量BED（ $\geq 80\text{Gy}$ vs $< 80\text{Gy}$ ）であることが明らかにされた。本研究において重篤な有害事象は認められなかった。結論として、3D-CRTは安全に施行可能であるが、局所制御の向上にはBEDで80Gy以上が必要であることが示された。限局型非小細胞肺癌に対する3D-CRT治療の有用性を検討した報告は過去にほとんどないため、診療上のガイドラインも明確に示されていないのが現状である。SBRTはすでに確立した精度の高い放射線治療であるが、姿勢の固定や呼吸の停止など患者さん自身の努力も必要になっている。今後高齢化社会が進むにつれて3D-CRTのようなより簡易的放射線治療の有効性と限界を知っておく必要があり、本研究は、SBRTの適応にならない症例に対する3D-CRTの成績（局所制御と安全性）を示した有用な研究で、すでに放射線腫瘍学会誌にも評価され掲載されている論文である。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

平成29年10月25日